

2. 国際医療薬学教育研究推進プログラム

本プログラムでは、高度な薬学専門性・研究力に加え、柔軟な俯瞰力、領域を超えた創造力を修得し、国際的な創薬研究や医療の発展に指導的な立場で貢献できる高度先導的薬剤師として、グローバルな視野・立場で国際的な研究機関や医療機関、行政機関での活躍や、学際融合・分野横断型研究の推進ができる薬学研究者や薬剤師、さらには世界の生命科学研究、薬学研究をリードする薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業において、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、本事業はその発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「国際医療薬学教育研究推進プログラム」については、国公立大学における豊富な国際的な教育研究交流、特に欧米等の最先端の生命科学研究を実施している機関・大学との交流実績を基盤として実施する。実践的語学教育プログラム（共通）をもとに、学部については、国際学会への参加、学生自主学修としての海外研修・インターンシッププログラム、大学院博士課程については、アドバンスト国際共同研究プログラムによる海外研究機関や大学における研究活動の実施が挙げられる。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<北海道大学>

○ 6大学ジョイントシンポジウム 【連携】

・学部生、大学院生を対象。学生による英語での研究発表。※2025年度実施予定

<東北大学>

○ 国際共同大学院プログラム 統合化学国際共同大学院

・大学院生を対象。東北大学の化学は、さまざまな事象を分子レベルで解明し、有機化学の分野を中心に、世界を先導して来た歴史的な背景がある。東北大学が強みを有する化学を基盤として、物理、生命、情報等の異分野の領域に踏み込み、化学の総合知に立脚して新たな課題に対応しうる学際的な研究を遂行するため、本プログラムでは、専門と学際領域のバランスの取れた教育体制を構築し、未来の科学を切り開くイノベーションにコミットできる課題対応能力の高い人材を育成することを目的とするプログラム。<https://gp-chem.tohoku.ac.jp/>

○ 国際共同大学院プログラム 食科学国際共同大学院

・大学院生を対象。2050年を生きる人類が必要とする「食」を科学的にデザインする

ことを目的とし、東北大学農学研究科、医学系研究科、歯学研究科、薬学研究科、文学研究科、国際放射光イノベーション・スマート研究センターが連携し、2024年10月にスタートした国際的かつ学際的なプログラム。

<https://gpfood.agri.tohoku.ac.jp/>

<富山大学>

- USC International Student Winter Program 2025 **(*)**
 - ・南カリフォルニアでのPharmDコースにオンラインで参加をし、海外の学生とのコミュニケーションを図った。学部生、大学院生を対象。
- USC International Student Winter Program 2025 **(*)**
 - ・南カリフォルニアでのPharmDコースにオンラインで参加をし、海外の学生とのコミュニケーションを図った。学部生、大学院生を対象。

<金沢大学>

- 金沢大学薬学シンポジウム
 - ・2024年度はレギュラトリーサイエンスシンポジウムと題し、国内のレギュラトリーサイエンスやデータサイエンス分野の教員を招いた。講義を聴くだけの形式ではなく、講師との自由討論の時間を十分に確保するなど、学生の研究に対するモチベーションや研究力の向上を目指した取り組みとした。学部生、大学院生を対象。

<岡山大学>

- フィリピンの薬剤師業務・教育・研究に関する海外視察研修
 - ・2025年2月16日（日）～2月20日（木）に本学と大学間協定を締結しているフィリピンサンカルロス大学の薬学部を訪問した。参加者は学部生2名（3年生と5年生）、大学院生1名（博士課程1年生）と帯同教員2名であり、本事業の旅費等は岡山大学配分予算により賄った。薬学部の講義に参加し、日本の大学の一般的なスクール型の講義と異なり、座学でもインタラクティブな参加型の講義形式となっている点に参加者の関心が向けられた。また、研究室の研究活動についても紹介され、フィリピンの気候特性に応じた植物化学の研究が精力的に行われていることを学んだ。さらに、セブ市内のCHONG HUA HOSPITALや市の運営するプライマリヘルスセンターを訪問し、フィリピンの医療制度における薬剤師の業務を学習した。本質的な業務内容は日本と変わらないものの、電子カルテやオーダーリングシステムが普及していないフィリピンにおいては個々の薬剤師の知識や技能が十分に活用される必要があり、日本よりはるかに長い薬学部生の実務実習期間が必要であることが理解された。また、PERPETUAL SUCCOUR HOSPITALのTHE RESEARCH INSTITUTEを見学し、臨床試験や治験などの高度医療に従事する薬剤師の業務内容を理解することができた。様々な施設における薬剤師業務や薬学教育現場を見学し、多領域の薬剤師業務における日本との差異を幅広く学ぶことができた。
- 米国薬剤師業務ならびに教育に関する海外視察研修 **【連携】**
 - ・2023年度に海外学生自主学修プログラムとして採択された事業を2025年度に行う予定である。2025年9月上旬に本学と大学間協定を結んでいるアメリカ合衆国ミシ

ガン州デトロイト市・ウェイン州立大学（WSU）のユージン・アップルバウム薬学・健康科学部（EACPHS）で研修を行う予定である。

<広島大学>

○ 米国テネシー大学・マーサー大学との国際交流

- ・本学薬学部5年生3名および大学病院薬剤師1名が2024年8～9月の4週間、米国テネシー大学・マーサー大学薬学部、および関連実習医療機関を訪問し研修を受けた。また、2025年3月に本学病院薬剤部および薬学部でテネシー大学薬学部6年生4名、マーサー大学薬学部6年生2名の研修を受け入れた。※2025年度実施予定

<徳島大学>

○ 2024年度 徳島大学薬学部—米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部症例検討ビデオカンファレンス

- ・学部生、大学院生を対象。学部間協定校である米国ノースカロライナ大学（UNC）薬学部との交流事業の一環として、ビデオ会議システムを活用し、両校学生によるリアルタイムでの症例検討会を例年実施している。2024年度は2024年1月から3月にかけて3回のビデオカンファレンスを実施した。本学部からのべ40名の学生が参加し、英語での症例検討を行うことで、臨床におけるグローバルな考え方の必要性について学んだ。

<長崎大学>

○ ニューメキシコ大学短期研修プログラム【連携】

- ・学生自主学修プログラムに採択された合同申請プログラムの一環として実施した。2025年2月14日～2025年2月23日の全10日間の日程で実施し、①海外での臨床薬剤師の活躍を見学し、日本との差異を体験することでもって、高度先導的薬剤師の養成に資すること、②英語によるコミュニケーション能力、異文化に基づく研究・教育の多様性を理解する能力、自ら進んで討議に取り組む主体的な態度などを身につけることにより、総合的で実践的な英語能力を養うことを目的としたもので、今回で5回目となった。全19大学の学部生・大学院生に公募をかけ、結果的に3名の学部生（自大学2名および他大学1名）をニューメキシコ大学（UNM）に派遣した。

○ ニューメキシコ大学薬学部実習生の受入（International APPE）

- ・2025年3月9日～21日、ニューメキシコ大学薬学部の正規授業である地域医療実習（実習生2名と引率教員1名）を長崎大学薬学部にて実施した。地域医療実習の前半1週間は、長崎大学薬学部での事前臨床実習、漢方実習、長崎大学病院薬剤部での臨床実習、市内薬局見学、久光製薬の工場見学を行った。後半1週間は上五島地区の離島実習施設（上五島病院、調剤薬局等）で僻地医療実習を行った。さらに、実習生によるアメリカの薬学教育や成果発表会、本学学生による日本の薬学教育や研究発表、茶道部による歓迎会や市内観光案内など本学薬学部学生が参加するイベントを組み込み双方の教員並びに学生の交流を促した。本学教員11名、本学学生のべ46名が参加した。

<熊本大学>

○ International Teaching Certificate Program の受講に基づくカリキュラムプランニングワークショップの開催【連携】

- ・わが国において臨床薬剤師の役割はまだ流動的なところが多い上、薬学教育は個々の教員の能力や臨床経験に依存している部分が多く、系統だった人材育成が行われているとは言い難い。一方、アメリカ合衆国ニューメキシコ大学（UNMCOP）では、臨床薬剤師を養成するための教育システムが確立している。今回のプロジェクトでは、UNMCOPが提供する International Teaching Certificate Programを大阪大学、千葉大学の教員が受講し、アメリカの先進的な臨床薬学教育指導法を学ぶことで教員の臨床教育能力を高めた。

< 静岡県立大学 >

○ US-COIL：大学の世界展開力強化事業

- ・カリフォルニア大学デービス校健康科学学部の外部講師と薬学部教員による講義をオンラインによる遠隔教育（COIL型教育）により実施した。

○ 実務事前実習（4年生対象）講義

- ・米国アリゾナ大学薬学部の Michael Katz 教授が講義を行った。

○ 薬学英语

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学領域における英語コミュニケーションを習得する講義を行った。

○ イングリッシュリサーチプレゼンテーション

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による薬学研究発表を英語で行う際の実用的なトレーニングを行う講義を実施した。学生は自ら行ってきた卒業研究に基づいて英語での発表資料の作成と発表練習を行った。

○ 米国での医療の視察・研修への学生の派遣

- ・米国の薬剤師業務、薬学教育や医療制度における研修するため、アリゾナ大学薬学部、アリゾナ大学病院、ツーソン市内、ワシントン大学附属病院の薬局などの視察・研修を10日間にわたり行った。学生2名（5年生）が参加した。

○ コンケン大学への訪問

- ・コンケン大学へ訪問しセミナーを行った。本学から教員及び大学院生と学部学生が参加し、現地の教員・学生と交流した。

○ 静岡県立大学・バンドン工科大学合同シンポジウム

- ・薬学部教員と大学院学生がインドネシアバンドン工科大学との合同シンポジウム（オンライン）にて英語での発表を行った。

○ 科学英語

- ・ネイティブ教員（薬学部専任准教授）による国際学会での発表支援を講義の一環として実施した。

○ アリゾナ大学訪問報告会

- ・2023年度の米国アリゾナ大学薬学部訪問プログラムに参加した2名（薬学部6年生）がプログラムの内容について報告した（対面+オンライン形式）。

○ 臨床研究実施能力醸成に向けた教育手法開発についてのワークショップ

- ・米国アリゾナ大学教員により臨床現場におけるquality improvementについての講演とワークショップを行った。学生は小グループに分かれ、臨床事例についてディスカッションを行った。本ワークショップは本学と徳島大学とで共同で企画した。

<名古屋市立大学>

○南カリフォルニア大学臨床薬学研修

- ・薬学部生および大学院生それぞれ1名の計2名が南カリフォルニア大学で4週間の実地研修を行った。本プログラムにはさまざまな国々からさまざまな学年や経歴の学生が集い、講義やグループワークを中心に学習を行った。